

実施報告書

HT25183

大村先生の”自分の香りを創る”講座—元気な香り、優しい香り、お気に入り
の香りを見つける新たな体験



開催日 : 平成25年8月9日(金)
実施機関 : 阪南大学(本キャンパス441教室)・神戸布引ハーブ園
実施代表者 :
(所属・職名) 大村 邦年(流通学部・教授)
受講生 : 小学生33名
中学生8名
関連URL : <http://www.hannan-u.ac.jp/lifelong/mrrf43000000twwi.html>

【実施内容】

◆本プログラムのねらいと工夫

本プログラムは、ヒトの五感の中で唯一目に見えないモノである「香り」を見えるモノへと体感させることをコンセプトとしている。そのために「香り」について①講義とディスカッション②フィールドワーク③ものづくり体験の3部構成で実施した。冒頭の講義「ヒトと香りの関係性」では、「香り」がヒトに与える具体的な良効果や実施代表者の研究課題であるファッションを中心としたビジネスと「香り」によるシナジー効果についてストーリー化させて紹介し、「香り」に対する具体的なイメージが浮かぶように工夫した。次に、「香り」を可視化させるために神戸布引ハーブ園へ移動し、「香り」の歴史や園内のフィールドワークを実施した。受講生は、ミントガーデン、セージ園、ラベンダー園などをまわりながら、「香り」と植物との関係性について植物学の専門家から説明を受け、実際に「見て・触って・嗅ぐ」という体感的な学習を組み合わせることで理解を深めることになった。ここで「香り」が「見えないモノ」から「見えるモノ」へと変化することに気づくことになる。プログラムの後半では、自分の「香り」の具現化を体験してもらうことにした。具体的には、有資格者のインストラクターの指導の下、学生アシスタントのアドバイスも受けながら受講生自ら「香り」のテーマを設定してもらい、香水(フレグランス)づくりをおこなった。プログラム全体は、受講生の企画力やセンスを思う存分発揮できるように体験学習を中心に構成し、最終的に受講生のものづくりに対する世界観を広げることが出来るように工夫した。

◆当日のスケジュール

9:30～10:00 受付
10:00～10:20 開講式、科研費の説明・諸注意
10:20～10:50 ミニ講義「ヒトと香りの関係性」
11:00 バスにて移動(神戸布引ハーブ園)
12:00～13:00 昼食・休憩
13:00～14:20 フィールドワークと香育体験(心地よい自然の香りを知ろう)
14:30 バスにて移動(阪南大学本キャンパスへ)
15:30～16:30 実習「自分の香りをつくろう！」
16:30～17:00 発表会「自分の香り」と講評
17:00～17:30 アンケート実施、修了式「香り博士号」授与
17:30 終了・解散



香りのストーリーテラーによる講義



布引ハーブ園での香育体験1



布引ハーブ園での香育体験2



布引ハーブ園での香育体験3



布引ハーブ園での集合写真



インストラクターとの香りづくり体験1



インストラクターとの香りづくり体験2



修了証授与式での一コマ

◆事務局との協力体制

実施代表者は実施1年前から事務局担当者と連絡を密にして、基本プログラムの設定と参加者の理解を深めるためにはどのようなことに留意し、どのような工夫が必要かを議論しながら相互理解と信頼関係を構築していった。そのプロセスから3つの決め事といわれる「誰に、何を、どのように」の組み合わせを明確にさせることができた。実施計画の段階ではアシスタント学生や有資格者インストラクターとの打ち合わせ、神戸布引ハーブ園への現地調査などをおこないながらチーム機能が形成されることになり、最終的に最適化された実施プログラムの実現へとつなげることができた。本プログラム実施にあたって委託費の管理については、実施担当部局である研究助成課において専用の帳簿を備えて、支出金の金額・内容を記帳しており、その執行に関しても財務課が管理をおこない把握することで、プログラムをおこなう上で十分な協力体制が機能していたと思われる。

◆広報活動

実施代表者と実施担当部局(研究助成課)が広報担当部局と協力して、大学の広報誌、ホームページに募集案内を掲載した。また、近隣の小学校・中学校を訪問した他、それ以外の学校に対してもポスター及びリーフレットを配布するなど積極的な広報活動を実施した。また、タウン誌や市役所の広報誌、地元商工会議所と青年会議所へのアプローチ、駅貼りポスター広告で対象者(小中学生)に限らず広く一般に科研費の研究成果がいかに本プログラムに活かされているかを周知させた。

◆安全配置

本年は、猛暑日が続いていることから特に熱中症による体調不良やノロウイルス等食中毒対策に十分配慮し、飲料水や冷タオルの配布、空調設備のある部屋での昼食をおこなった。プログラムではすべての行動について教職員やアシスタント学生が常に付き添い、神戸布引ハーブ園へはバス移動のため、保護者の同意を得るとともに、プログラム時間内(開始から解散まで)には傷害保険に加入することで、十分な安全体制を確立した。

◆今後の発展性、課題

定員30名に対して、申し込みが61名となったため、急遽41名(小学生33名、中学生8名:男子9名、女子32名)に増員することになった。このことから分かるように「香り」というテーマは決してハイエイジ(大人)だけのものではなく、小中学生のようなローエイジにとっても非常に関心度が高いことがわかった。実際に神戸市では公益社団法人日本アロマ環境協会と連携して、小学生を主な対象とした「自然の香り」の大切さを伝える「香りの教育」＝「香育」を実施し、大きな成果をあげている。今回、実施代表者の研究課題であるファッションに関するビジネスモデルの成果と「香り」を組み合わせた本プログラムは、アンケート結果から満足度や有意義性が高く、また、ニーズに合致しており、今後のさらなる発展性も十分に有していると考えられる。今後の発展・検討課題としては、バス移動の時間配分等のスケジュールリングを精査することである。特に、受講生のニーズが高かった「香りづくり」実習の時間枠を中心に位置づけることが必要である。

【実施協力者】 5名

【事務担当者】
 戀川 照義 研究助成課・係長